

約四百年の歴史を誇る

鴻巣びびな

問合せ 産業観光館「ひなの里」(☎540-3333)

鴻巣に人形づくりが伝えられたのは、一説では安土桃山時代の天正年間(1573年〜1592年)といわれ、当時は土で形を作って焼く素朴な土人形が製作されていました。

江戸時代中期になると、桐などの木粉に糊を混ぜて練り固める練り人形に変わり、女雛と男雛が対になった人形が作られるようになりました。その頃から「鴻巣びな」として知られるようになり、江戸の十軒店(日本橋)、越谷と合わせて「関東三大ひな市」と呼ばれるほどに。特に着物の着せ付けは関東一という評判で、江戸の職人が競っ

て修行にやっってきたほどでした。

その後、明治36年の勸業博覧会での三等受賞、皇室への献上など、高度な技術と優れた品質で「鴻巣びな」の名が全国に知られるようになりました。当時の県内人形業者数は越谷6軒、大沢(現在は越谷)3軒、岩槻3軒に対し、鴻巣は31軒、職人300人という記録があることから、その盛況ぶりがうかがえます。

現在も中山道沿いには人形作りに関する店舗が並び、江戸時代から続く「鴻巣びな」の伝統を脈々と受け継いでいます。



全国でも珍しい「人形」の地名

全国で「人形」という地名（登記の町字名）は「東京都中央区日本橋人形町」と「鴻巣市人形」の2例のみで、日本橋は人形浄瑠璃にちなんだ名称のため、「人形生産地」由来の名称は鴻巣のみとなります。

現在の「鴻巣市人形」の大部分は、江戸時代、鴻巣宿ではなく上谷新田村で、明治22年（1889年）に鴻巣宿・上生出塚村・下生出塚村と合併し「鴻巣町」の一部となります。上谷新田は「埼玉県北足立郡鴻巣町大字鴻巣元上谷字新田」となりま

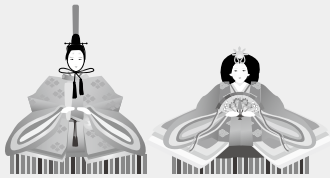
ひな祭りの歴史

女の子の赤ちゃんが初めて迎える上巳の節句（桃の節句）を初節句といい、3月3日がこの日にあたります。

わらや草木でつくった人形に自分の災厄を移して川や海に流す「流しびな」と、平安時代に貴族の子女の間で始まった人形遊び「ひいな遊び」が、長い間に結びつき、現在の「ひな祭り」となりました。

【節句は5つある！】

- 人日じんじつ（1月7日の七草がゆ）
- 上巳じょうし（3月3日の桃の節句）
- 端午たんご（5月5日の端午の節句）
- 七夕たなばた（7月7日の七夕祭り）
- 重陽ちゅうよう（9月9日の菊の節句）



したが、住民は町内会を「鴻巣人形」にちなんで「人形町」と命名し、郵便物などの実生活においては「人形町」を好んで使いました。
そして昭和40年（1965年）に、市が「人形町町内会」の地域を、登記地名「人形1」4丁目」に改編したことで「人形」の地名が正式に認められました。（市観光協会歴史文化部）



▲洋風のひな人形。レースの飾りなど細部までこだわっています



▲顔つきや化粧にも個性があります



鴻巣の人形作りは、農家が閑散期に副業として始めたもので、時代とともにひな人形などの専業へと変わり、明治期には中山道沿いに数多くの職人がいました。

鴻巣のひな人形の特長は、細部までのこだわりです。表面上だけでなく、見えない部分までしっかりと手間をかけて縫い合わせています。

最近では、顔つきや衣装が洋風な人形、人気キャラクターとのコラボ人形などがメディア等で紹介されていますが、お子さんのお守りということもあり、やはり伝統的なデザインを買われる方が多いですね。

ひな人形は、お子さんが触れることでその子の厄を吸い取ってくれるといわれていますので、ぜひご家庭のひな人形で遊ばせてあげてください。そうすることで顔の表情や着付けの細かい部分も楽しんでもらえると思います。



鴻巣ひな人形協会会長 関口 典宏さん

鴻巣に職人ありと
知らしめたい



頭師

埼玉県伝統工芸士

鴻巣の職人 健一さん

の技

ひな人形の顔を作る頭師の家系に生まれた的場さんは、中学校卒業後に岩槻の人形屋で5年間修行を積み、4代目として独立しました。現在では本市で唯一の頭師です。

「60年以上続けていますが、その時々、こんな顔にしてほしいという注文に応え、作ってきました。今も皆さんに喜ばれる顔を描けるよう日々探求しています。」

ひな人形の顔は、親王様で50以上の工程があり、特に神経を使うのは筆仕事といえます。細い筆で、眉毛や髪の毛の生え際などを本物さながらに何本もの線を描きこむ技は見事です。



石膏に和紙や布の衣装を貼り付ける木目込み人形も手掛けます



ひな人形の顔は、数多くの工程を経て出来上がります

的場さんは人形作家としても活躍しており、木目込み人形や絵付け人形教室の開催、壊れた人形の修理も受け付けています。「この仕事が好きだから、まだまだ現役で頑張ってます。鴻巣に職人ありと知らしめたいですね。」と語ってくれました。

赤物人形は江戸時代から魔除け・病除けとして、また、軽くて丈夫な郷土玩具として庶民に愛されてきた素朴な人形です。桐のおがくずに糊を加えて練った生地を型に入れて成形し、乾燥させた後、赤く彩色します。

この赤物製作技術は平成23年に、玩具の製作技術としては全国初となる国の重要無形民俗文化財に指定されました。



国指定 重要無形民俗文化財
鴻巣の赤物



こだわりの
柔らかな風合いの曲線美

人形師 埼玉県伝統工芸士 小野島 久美さん



脈々と受け継がれる

伝統

人形の体を作る人形師として18年目の小野島さんは、工房で3代目となる埼玉県伝統工芸士です。

ひな人形は、顔とともに美しさの決め手となるのが振り付けです。振り付けとは、人形の腕を曲げたり、手元を形作ったりして、その人形の姿を完成させることです。

「毎回同じことの繰り返しですが、固い針金を曲げるには力が必要なこともあり、左右対称の振りが特に難しいです。長く続けてやっと技術を身につけることができます。また、衣装の着付けにも、時々合った色調を取り入れるよう心掛けています。伝統を活かしつつ、柔らかな風



家具や部屋の雰囲気に合うくすみカラーも人気



針金の腕がつっぱった状態で体に衣装を着せ、綿を入れながら“振り”がつけられます

合いをもつ曲線美を大切にしています。「目打とへらを使って絶妙な角度の振りを付ける熟練の技が光ります。」

最近の住宅事情に合わせた小さめの人形が多く出るといい、「女の子のお守りとして毎年ちゃんと飾ってもらえると作る側としても嬉しいです。」と語ってくれました。



赤物人形職人 おおつか 文蔵さん

昔ながらの製法で赤物を作っています。赤物は贅沢品ではなく、庶民に愛されてきた素朴な人形です。すべて手作りですので、目の位置や描き方などが異なりますが、そこが赤物の良いところだと思います。

ひな人形は皆さん馴染みがあるかと思いますが、鴻巣には赤物もあるということを知ってほしいです。

干支の赤物もありますので、市内の各家庭に毎年飾ってもらえるようになると嬉しいですね。



人形の歴史を伝える 産業観光館「ひなの里」

ひな人形や赤物製作技術など、鴻巣の人形の歴史を学べる施設です。享保雛や古今雛などの古いものから、現代のコンパクトタイプまで、さまざまな時代のひな人形を年表に沿って見ることができます。



老舗の人形店だった風情ある建物を改装した施設で、なかでも明治期に建てられた蔵は、地域の歴史と文化を伝える景観の一部として高く評価され、平成25年に県の景観重要建造物に指定されています。

観光協会が管理しており、各種イベントの開催や観光案内、特産品の販売等も行っています。蔵の前に広がる中庭では、季節ごとの花々も楽しめますので、憩いの空間としてご利用ください。



中庭は、風情ある建物と季節の花を楽しめます



人形の歴史や特徴を紹介しています

役目を終えた人形に感謝して 「人形供養祭」



毎年11月14日、勝願寺の境内で、役目を終えた人形を供養する「人形供養祭」が行われます。

各地から多くの人が人形を持って集まり、お坊さんの読経後、お焚き上げをします。



本市の人形は 「ふるさと納税」でも好評



本市では、ふるさと納税返礼品として数多くのひな人形を取り揃えています。令和4年度は、市内人形店より提供されている返礼品に対して71件（1,031万円）の寄附があり、市外の皆さんから本市の特産品として高く評価されています。



問合せ 総合政策課シティプロモーション担当(内線2237)

▲詳細は市HPへ



20th since 2005

日本一のピラミッドひな壇で 人形のまち鴻巣を全国に発信 鴻巣びっくりひな祭り

鴻巣びっくりひな祭りは、毎年2月中旬から3月上旬にかけて開催されるイベントで、市民ボランティアが主体となり、企画・運営をしています。平成17年から始まり、今回で20回を迎えます。

会場に訪れた皆さんを“びっくり”させているのが、メイン会場のエルミコウのすしヨッピングモールに飾られる31段のピラミッドひな壇。高さは約7メートルで日本一の高さを誇ります。31段×4面に約1,500体の色とりどりのひな人形が飾られた光景はあやかです。

メイン会場のほかにも市内のさまざまな施設で趣向を凝らしたひな人形が飾られ、まち全体がひな祭りのお祝いムードであふれます。



鴻巣びっくりひな祭り
副実行委員長
わたなべ あけみ
渡辺 明美さん

歴史あるひな人形のまちとして、市民全体でひな祭りを楽しんで、まちを明るく元気にしたい。また、未来の子どもたちに歴史を伝えていきたいとの思いで、数名のメンバーで活動を始めました。

ピラミッドひな壇は、市役所本庁舎1階の4本の柱のところに4面のひな壇を作ったら面白いのではとの発想で始まりましたが、当時約1,300体のひな人形を集めるのが大変でした。家庭で飾られなくなった

ひな人形を募集して、県内全域にひな人形を受け取りに回りました。

最初は、ひな壇の高さは26段5.74mでしたが、第8回には31段7mとなり、日本一高いピラミッドひな壇として認定されました。イベントとともにピラミッドひな壇も成長しましたね（笑）。現在もメイン会場に飾るひな人形は、すべてその年に集まった人形を飾っています。寄付した方が自分のひな人形がどこに飾られているかを見つけて喜んでくれる姿を見ると、おひな様も嬉しいだろうなと思います。

今までいろんな人がボランティアとして携わってくれて、ここまで開催し続けられたことに感謝の気持ちでいっぱいです。私たちと一緒に鴻巣を盛り上げてくれる方、ボランティアへの参加をお待ちしています。



第1回～第11回は市役所本庁舎をメイン会場として実施していました



全国各地から寄付されたひな人形を、ボランティアが一体一体丁寧に飾ります



毎年、代表となるひな人形は勝願寺で祈祷を受け、メイン会場受付に飾られます



2/16(金) 3/9(土)

ひな人形のふるさと

鴻巣



びびくり ひな祭り 2024

おかげさまで
20周年!

エルミこうのす P 700台
ショッピングモール1階セントラルコート

「ひなめぐり号」
運行日
2.17(土)・18(日)・23(祝・金)・
24(土)・25(日)・3.3(日)
※状況により、変更となる場合があります。

無料循環
バス

31段 高さ約7m
日本一高い
ドラミッドひな壇

サテライト会場

日本一大きな内裏雛 & 雛蔵つるし飾り

2.16(金)から3.9(土)まで

P 30台

産業観光館「ひなの里」

六角錐ひな壇 & つるし雛

2.16(金)から3.10(日)まで

P 122台

花と音楽の館かわさと「花久の里」

三面ピラミッドひな壇 & 花で着飾る等身大ひな人形

2.6(火)から3.10(日)まで

P 100台

鴻巣農産物直売所「パンジーハウス」

八角錐ひな壇

2.16(金)から3.9(土)まで

P 300台(共用)

コスモスアリーナふきあげ

鴻巣ひなのイメージ展示

2.16(金)から3.3(日)まで

P 121台(共用)

吹上生涯学習センター



▲各会場の開催日時や休館日等の詳細は市HPをご覧ください

花びな展示



鴻巣駅改札内



パンジーハウス

展示会場・その他

- ◆文化センター「クレアこうのす」
- ◆北新宿生涯学習センター
- ◆コウノトリ野生復帰センター「天空の里」
- ◆にぎわい交流館「にこのす」
- ◆市役所本庁舎市民ロビー内階段

